

# ピカピカ卒業記念品

## 大原小 製鉄体験で研磨作業

一関市大東町の大原小学校(菊池正人校長、児童100人)の6年生21人は4日、総合的な学習の時間を使って1年間取り組んだたたら製鉄体験の締めくくりとして、卒業記念の文鎮の研磨作業に励んだ。

たたら製鉄体験は、同校では旧内野小学校時代から地元ボランティア団体ホッパの会の協力を得て行われ

ている。文鎮は縦6センチ、横5センチ、厚さ0.8センチで、奥州市水沢の及源鑄造が児童が作った鉄を用いて2月に鑄造。表面に「大原」「絆」の文字と校章などがデザインさ



卒業記念の文鎮を布やすりで磨く大原小の6年生

れている。今回は同会事務局長の勝部欣一さん(75)の指導で、文鎮の表面を布やすりで研磨した。児童は徐々に光沢が増してくると、一層力を入れてやすりを掛けていった。

菅原優成君(12)は「砂鉄の取り方や鉄を使ったものづくりについて、いろいろ知ることができた」と1年間を振り返り、「これからも後輩たちに製鉄の活動を引き継いでほしい。文鎮は家に飾りたい」と語っていた。

活動を見守ってきた勝部さんは「例年の取り組みのほか、10月には市内で開催された全国川サミットで発表も行い、ここまで深く活動したのは初めて。昔からの製鉄の文化を継承していただきたい」と願っていた。